

社会福祉法人白寿会 令和2年度（2020年度）事業報告

【法人本部】

1. 本部事業報告

2020年度は新型コロナウイルス感染症による大変な年でした。現在まで当法人においてはクラスターが発生していませんが、市内の多数の施設においてクラスターが発生し、入院ができず施設内死亡も多数散見されます。2021年5月13日よりワクチン接種を開始しておりますが、まだまだ息の抜けない状況です。

白寿苑・つむぎ苑の施設老朽化にともない計画的に実施しております大型修繕及び機器の入れ替えについて、2020年度はエレベーター機能維持管理、本館受電設備改修工事、本館誘導灯更新工事、中央監視装置UPS更新作業、ケアハウス居室天井照明器具LED化工事、浴槽配管洗浄作業、ファンクス電話交換機設備の更新、その他、経年劣化に伴う設備・不具合箇所の修理は完了致しました。

その他で計画しておりました、各種設備修理のうち6階洗濯室排気ファン交換、1階ファンコイルユニットリモコン増設工事は新型コロナウイルス感染対策のため延期、新館屋上床暖房給湯器部品交換は後継機種での新設計の機器更新準備が出来ましたので次年度で再計画致します。

また、各濾過装置薬注ポンプタイマー回路増設は既存タイマー設定で対応、大便器自動水栓修繕(502号室)につきましては廃盤部品の調達によりメーカー修理で対応出来ましたので中止致しました。

職員確保については、新型コロナウイルス感染対策にともなう来会者制限により、見学や体験が実施できない状況にあり、これまで弊会の採用活動で重視していた取り組みが行えない環境となりましたが、いち早くZoomを導入し、WEBを活用しての説明会およびインターンシップ、動画を活用した情報提供を活発に行いました。面接についても、対面を基本としつつ、緊急事態宣言下や、遠方からの応募者についてはWEB面接を実施できるようにいたしました。

【施設部】

2. 特別養護老人ホーム白寿苑

2020年度の特別養護老人ホーム白寿苑におきましては、入所者平均年齢は89.1歳、平均要介護度は4.1、平均在所期間は54.4ヵ月であります。

医療機関への入院者実人数は33名。死亡退所者数は17名、医療依存度が高く療養上の理由から帰苑困難となった退所者は2名となりました。

高齢者虐待によるやむを得ない措置入所は3件の受け入れを行いました。

特養として注力し取り組んでいる看取り介護については、今年度初めて死亡退所者全体の100%となりました。

今後も虐待保護の措置入所ケースや、一層、高まる看取り介護のニーズに応じていくため、各職種のスタッフ一人ひとりのスキルを高める取り組みを強化します。「利用者のために」との基本理念、介護理念に掲げる「いっしょに過ごす暮らし」から入所者、ご家族からの安心と信頼頂けるサービスを提供できるよう、積極的に取り組んで参ります。

昨年度より新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底し、現在まで当苑入所者、職員に罹患者はなく経過しております。ご家族様には直接面会の制限を継続実施しており、オンラインによる面会方法を提供させて頂いております。入所者への新型コロナウイルスワクチン接種が5月中旬より開始されますが、感染症対策を十分に徹底し、新規入所を進めて参ります。

3. 短期入所生活介護

2020年度は新型コロナウイルス感染症による利用抑制の影響から、年度前半は稼働が大きく低下しました。実績は次の通りです。

月平均稼働率は66%、最高は2021年2月の78%でした。昨年度より平均稼働率は10%ダウンしました。

利用者全体に占める中重度利用者（要介護3以上）の割合は平均68%となりました。

大阪市認知症等高齢者緊急ショートステイ事業居室確保業務も引き続き受託し、前年度と同数の10件の緊急受け入れを行いました。

引き続き感染対策には十分に注意し稼働向上に努めて参ります。

4. ケアハウス白寿苑

2021年4月1日現在、入居者数28名です。平均年齢は86.1歳、要介護認定を受けている入居者は23名です（その内、要支援…7名、要介護1…4名、要介護2…9名、要介護3…1名、要介護4…1名、要介護5…1名です）。

① 行事は、感染予防のため、全て中止しました。

サークル活動についても、外部ボランティアによるもののみ継続していたため、ボランティアの受け入れ中止に伴い、全て休止しています。

外出制限が続く中、居室内でも楽しんでいただこうと、コーヒーのルームサービスを行いました（12月、2月、3月）。

② 個別の援助計画を作成し、実施しています。感染対策のため、入居者家族との対面での面談ができず、電話での対応となることが多くなりました。

5. 白寿会診療所

(1) 感染対策

2020年度は、感染対策の徹底に力を入れた年間でした。しかし物品の流通もままならず、限られた物品での対応が、職員への不安や不満につながったところも否めません。

しかし、感染症のクラスター発生等はなく、何より職員の努力の結果ともいえると思います。

次年度は、ワクチン接種も随時可能になってきます。一つの安心材料として、それでも気持ちは緩めず、できるだけ実践可能な対策で、継続ができる内容であることを基本にして対応を続けていきたいと考えています。

(2) 多職種協働

感染対策の継続が、ケアの縮小に至りました。

命を守ることが最優先ですが、可能な範囲で利用者の生活支援に「楽しみ」「喜び」を加えられるよう、努力を続けます。

【在宅部】

2020年度は新型コロナウイルス感染症による影響に大きく左右され、有料老人ホームにおいては面会制限や新規受け入れの一時的な制限などもあり、稼働率が低下した時期もありましたが、感染対策の徹底と利用者、ご家族、職員の協力もあり介護保険収入は前年度より増収となっております。

サービス事業課全体としても感染症対策という制限の多い中でも通所、訪問事業に関しては稼働率を上げ、通所に関しては特例措置を活用し、前年度比に対して増収となっております。

コロナ禍において人と人との交流が途絶える中、地域包括支援センター、にしなりオレンジチームが基礎となり、地域の総合相談窓口の機能を維持し、孤立防止に努めてきました。相談支援課全体としては、前年度比にて減収となりましたが、地域包括支援センターの人件費分の委託費の増額、ライフサポートセンターの稼働率の向上により収益向上を目指します。

新型コロナウイルスの影響は継続されると予測され、法人内の連携強化、BCPの質向上により、今の時代のニーズに応えることができる在宅サービスを構築していきます。

●介護サービス事業課

6. デイサービスセンター白寿苑

◆一般デイサービス

コロナ禍の中、慎重に体調確認を行いながら新規利用者を獲得しました。そして、レクリエーションではソーシャルディスタンス等の感染防止策を行いながら、利用者にご満足頂けるように取り組んできました。

今回の収益でございますが、新型コロナウイルス感染症に係る介護サービスに係る特例措置（12報）の介護報酬取得の影響や、二度の緊急事態宣言の発出にも関わらず、利用者からの休み希望（長欠）が少なかった為、増収に繋げることができたと思います。次年度は、個別機能訓練や厚生労働省へのデータ提出（L I F E）等を行い、更なるサービス向上と増収に繋げることができるよう取り組んでいきます。

介護サービス費請求額（利用者負担額含む）

	通所介護	介護予防型 通所サービス	短時間型 通所サービス
2019年度	¥50,460,969	¥1,449,927	¥211,028
2020年度	¥57,355,898	¥2,123,800	¥189,640
差額	+¥7,194,275	+¥673,873	-¥21,388
合計	+¥7,846,760		

◆デイサービスほかほか

一般デイサービスと同じくコロナ禍の影響が少なく、安定して運営を行うことができました。そして、長時間の利用を希望される利用者が6割を超えました。地域運営推進会議ですが、コロナ禍の為、電話連絡での対応となりましたが、地域代表者様と取り組みを共有し、貴重なご意見を頂くことができました。寺子屋教室ではICTを活用し、利用者個々にあった内容を提供することができました。

年度末から始めた取り組みとしては、個別機能訓練加算の取得に向け、看護師（機能訓練員）、相談員を中心に課題を検討しながら準備をすすめてきました。引き続き次年度も感染症に注意しながら、新規利用者を獲得し増収に繋げることができるよう取り組んでいきます。

介護サービス費請求額（利用者負担額含む）

	認知症対応型通所介護	介護予防認知症対応型 通所介護
2019年度	¥28,202,527	¥0
2020年度	¥31,875,294	¥0
差額	+¥3,672,767	¥0
合計	+¥3,672,767	

7. ヘルパーステーション白寿苑

2020年度は新型コロナウイルス感染症により大混乱が起きましたが要介護者のライフラインとして日常生活の支援は必須で、訪問時のコロナ感染対策を緊張感を持続しながらの活動になりました。

マンパワー不足の中でも身体活動の依頼が多かったことと、訪問先の順序の調整により移動時間の短縮化などにより稼働率、収益を上げることができました。

◆介護保険サービス

月平均利用者数は28.3人です。月平均訪問回数は256回で職員の稼働率が増加しました。

要介護者と要支援者は7：3の割合で昨年と同じですが、身体活動が増加し、身体・身体生活活動が78%、生活が22%でした。

死亡や入所などの中止ケースが6件で新規ケースが8件ありました。

◆障害者総合支援法サービス

障がい別人数割合は以下の通りです。

移動支援の余暇活動については中止しております。

障がい別	身体障害	知的障害	精神障害	重度障害
割合	23%	22%	51%	4%

支援内容の割合は以下の通りです。

支援内容	身体介護	家事援助	通院介助 身体伴う	通院介助 伴わない	同行援護	移動支援	重度訪問
割合	16%	27%	17%	0%	19%	7%	14%

8. 有料老人ホームつむぎ苑

2020年度のつむぎ苑の実績といたしましては、平均稼働率は86.3%、前年度の88%と比較し低下しております。上半期の稼働率は9割を維持していましたが、下半期の稼働率は82%と低迷。前年度からのコロナ禍において、明らかに入居の問い合わせ件数が激減していることを実感します。とはいえ、下記の通り前年度の収益と比較すると約100万円程度の収益増であり、上半期の稼働率の維持と平均要介護度上昇による介護サービス費の増収により、かろうじて増収の結果となったと言えます。9割の稼働率を維持できるよう広報活動はもちろんのこと、引き続き、各部署、地域関係機関と連携を図り、利用者獲得に努めてまいりたいと思います。

一方、介護度の上昇から介護職にかかる負担が増加しております。これに伴う介護職の離職率の上昇が危惧され、ICT等を使った業務の導入、夜勤専従パー

トの採用など前年度に引き続き介護負担の軽減に取り組んでいるところです。

		総額	介護サービス費	自費サービス
請求額	2019年度	¥111,460,969	¥57,696,755	¥182,457
	2020年度	¥112,475,757	¥59,833,703	¥106,964

●相談支援課

9. 玉出地域包括支援センター

◆地域支援事業

地域の医療・介護のネットワーク構築や認知症施策に関する会議体は感染対策に留意し、オンラインのツールを活用し開催できましたが、活動・行事に関しては延期や中止という形を取りました。

・玉出地域包括支援センター実績

総合相談件数 7421件（昨年6283件）、権利擁護虐待対応実件数 4件
介護支援専門員支援 1033件（昨年917件）

はつらつサークル（独自事業）は書道サークルのみを数回実施したものの、他サークルは中止。100歳体操事業も施設の利用が困難なため全面中止となりました。

独自事業を自粛した分、訪問・出張による相談対応を速やかに行った結果、総合相談件数が前年度より約1000件増という結果となりました。相談件数増は、フォロー体制だけでなく、コロナ禍による高齢者の活動全体の低下、不活発による重度化も要因として大きいと考えています。

・認知症強化型地域包括支援センター実績

区内地域包括支援センター地域ケア会議後方支援・・・6件

認知症推進代表者会議、実務者会議・・・合計 10回

認知症対応力向上研修 3回（集合研修1回・オンライン研修2回）

認知症啓発講演会（新型コロナウイルス感染症 拡大防止のため延期）

オンラインツールを通じて、今後のネットワーク構築の在り方について次年度への課題として見えてきたことも多くありました。

◆介護予防支援事業

介護予防サービスは、利用者総数 6267件（昨年度6137件）、内、地域包括支援センター延べ実績 499件（昨年度498件）、一部委託 5768件（昨年5639件）で対応しています。

昨年度、コロナ感染拡大のため中止した自立支援型ケアマネジメント検討会議の振り返り会議を開催。生活支援コーディネーターと理学療法士を外部

助言者に迎え、コロナ禍だからこそ考えるケアマネジメントについて協議を行いました。次年度への課題取り組みについてのヒントを得ることができました。

10. 認知症初期集中支援推進事業（にしなりオレンジチーム）

2020年度は折からのコロナ禍で支援や広報啓発活動には大きな影響がありました。

相談実件数は48件で昨年度との大きな差異は見られませんでした。ご家族からの依頼は9件で全体の約2割もありました。

一方、問い合わせ件数は69件に上り、昨年度に比べ約2倍の増加です。包括、ブランチ、病院、郵便局等主たる関係機関のみならず、当チームのホームページにアクセスした家族からの相談が増えつつあり、二度の緊急事態宣言によるフレイルの心配も理由の一つではないかと推測できます。若年性認知症の相談支援実件数は2件でした。

広報啓発活動では、集いの場へのアプローチが困難でしたが、関係機関への事業説明を中心に62回実施いたしました。

開設から4年4ヶ月が経過、2021年度も引き続きコロナ禍を踏まえた感染症対策やICT活用を行い、個別事例の相談支援、区内外の関係機関との連携、認知症強化型地域包括支援センターとして担う『ほっと！ネット西成』連絡会（区認知症ネットワーク会議）の運営を通じて、区内に住む人、区内で働く人の双方に向けて各種認知症施策の推進を図って参ります。

主な実績

	2020年度	2019年度
相談支援実件数	48	52
問い合わせ件数	69	33
関係者会議	3	3
地域ケア会議参加	9	14
広報啓発活動	62	46

11. ライフサポートセンター白寿苑

2020年は感染症が様々な形で影響を及ぼしていたと考えます。担当利用者の熱発対応やPCR検査同行、サービス事業者の介入不可、他事業所サービスの営業停止なども利用者に影響を及ぼしました。

上期は緊急事態宣言等やコロナ対応などの戸惑いもあり、利用者獲得を慎重にならざるをえませんでした。ケアマネジャー訪問が利用者に対して感染持ち込みの原因にならないように警戒を伴う状態でありました。

ライフサポート業務においても特定事業所加算要件であるケアマネジャー実

習の受け入れや資質向上研修参加なども行うことができない状況であり、感染症の様子を伺う時期となりました。

下期については外部でもオンライン環境が整い、ケアマネの資質向上の研修や外部研修の開催により参加をしています。またライブ主催の事例検討会も感染対策を行いながら実施しています。

引き続き、コロナ禍であることは変わらないと思われるので2021年度もオンライン等を活用しながら、地域でのケアマネ勉強会などを実施していきます。ケアマネ実習の受け入れも感染症の状況を確認しつつ再検討をしていきます。

事業所の運営について、新規利用者獲得については、要介護者29件、予防6件で病院や利用者からの相談件数が主です。前年度より利用者獲得数は減少しています。コロナ禍ですが、件数を取らなければ事業運営も難しくなります。引き続き適正なマネジメントを行いつつ利用者獲得を目指し収益につなげていきます。

12. 相談支援事業はなめ

(1) 事業内容及び実績について

2020年度は相談支援専門員現任研修を修了することができました。相談員1名体制で事業の継続が可能となっています。「精神障がい者支援体制加算」は、2021年度より算定できるよう申請を行っています。その他、体制加算要件の研修は、新型コロナウイルス感染症の影響で受講することができませんでした。

利用登録者数は、月平均37.1名で前年度より約3名増加しています。請求件数は月平均28.8名と微増しています。「利用者の状況確認や支援内容の調整等を手厚く実施したことを評価する為の加算」は36件と前年とほぼ同数です。障害サービス事業所の感染予防対策の関係で訪問することができず、算定件数を伸ばすことができませんでした。収益は前年度の104.1パーセントとなっております。

新規登録件数は、8件のうち5件はサービス事業所や医療機関等からの依頼です。地域関係機関との連携強化に取り組んだ結果と評価しています。引き続き会議や行事に参加し地域関係機関との連携強化を図ってまいります。

【白寿会研修センター】

13. 喀痰吸引等研修事業

当事業は、2013年度より開始し、近隣地域の社会福祉法人ジー・ケー社会貢献会、特別養護老人ホーム山愛の三者が協働して実施しておりますが、2020年度については新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、不開催といたしました。

なお、これまで 11 回開催し、基本研修参加者が計 216 名、そのうち全課程修了者が 193 名、基本研修修了後実地研修受講中が 13 名（2021 年 3 月末現在）となっています。